

<論文賞>

第1回論文賞 [1991~2007 年度論文対象] 受賞論文 5 編 (2009 年 3 月表彰)

- 清水史郎, 長谷川健二, アルペンスキーロボットの開発 - 股関節の内転・外転と回旋の複合モデル-, 日本スキー学会誌, 1995, Vol.5, No.1, p.107-113.
- 中浦皓至, 池田弘一, 青木文男, 日本スキー史の検証 [第 1 報] ノルウェースキー技術の導入について, 日本スキー学会誌, 1998, Vol.8, No.1, p.51-62.
- 仁木國雄, 古岩信嗣, 萩原雅友, 金子克己, 灰塚正次, 富澤一郎, 江本誠司, 細谷典義, 石井明, モデルスキーを用いたスキー動摩擦係数測定と雪質および滑走面との関係, 日本スキー学会誌, 2001, Vol.11, No.1, p.175-186.
- 長井力, 櫻井裕樹, 土岐仁, 巖見武裕, 腰部運動がスキー滑走に与える影響, スキー研究, 2004, Vol.2, No.1, p.9-16.
- 長谷川健二, 清水史郎, プルークボーゲンとカービングターン - 横ずれと切れ込みによるターン技術の力学的比較 -, 日本スキー学会誌, 2006, Vol.16, No.1, p.51-60.

第2回論文賞 [2008~2010 年度論文対象] 受賞論文 2 編 (2012 年 3 月表彰)

- 清水史郎, 長谷川健二, 野尻奈央子, テレマークスキーロボットの開発 - 膝関節の屈曲と伸展によるパラレルターン・モデル-, スキー研究, 2010, Vol.7, No.1, p.21-26.
- 喜多正裕, 井村仁, 子どものスキーに対する親の期待とスキー学校の意識及び準備について - 小学生を子どもに持つ親を対象として -, スキー研究, 2009, Vol.6, No.1, p.15-26.

第3回論文賞 [2011~2013 年度論文対象] 受賞論文 1 編 (2014 年 3 月表彰)

- 近藤亜希子, 土岐仁, 廣瀬圭, 実滑走におけるスキーヤーの 3 次元姿勢計測とターンの運動解析に関する研究, スキー研究, 2013, Vol.10, No.1, p.19-26.

<優秀発表賞>

受賞者は○印の発表者

第1回優秀発表賞 [2013 年度研究会発表者対象] 受賞者 1 名 (2013 年 9 月表彰)

- 近藤亜希子, 西川太朗, 土岐仁, 小型力センサを用いたスノーボード用雪面反力計測システムの開発に関する研究, 日本スキー学会 2013 年度研究会講演論文集, 2013, p.26-27.

第2回優秀発表賞 [第 24 回大会発表者対象] 受賞者 1 名 (2014 年 3 月表彰)

- 伏見知何子, 塩野谷明, 廣瀬圭, 谷部勝彦, スノーボードジャンプ台における飛び方を対象とした動作・意識分析に関する研究, 日本スキー学会第 24 回大会講演論文集, 2014, p.30-33.

第3回優秀発表賞 [2014 年度研究会発表者対象] 受賞者 1 名 (2014 年 9 月表彰)

○石塚創也, 恵庭岳滑降競技場の建設と自然保護をめぐる議論—地方紙「北海道新聞」の検討を中心に—, 日本スキー学会 2014 年度研究会講演論文集, 2014, p. 34-37.

第4回優秀発表賞 [第 25 回大会発表者対象] 受賞者 1 名 (2015 年 3 月表彰)

○廣瀬圭, 近藤亜希子, 土岐仁, 実滑走情報を用いたスキー・ターンのメカニズム解析に関する研究, 日本スキー学会 第 25 回大会講演論文集, 2015, p.66-67.

第5回優秀発表賞 [2015 年度研究会発表者対象] 受賞者 1 名 (2015 年 9 月表彰)

○吉田陽平, 結城匡啓, 熟練度の異なる技術選スキー選手による急斜面大回り滑走動作の 3 次元解析, 日本スキー学会 2015 年度研究会講演論文集, 2015, p.34-37.

